



太平洋横断に日本一周と、豊富な航海経験を持つカーク・パタソンさん(64歳)。日本での生活も長く、日本語も堪能。日本各地で出会ったことのあるセラーも多いだろう



カークさんの愛艇(シルクパース)。マーク・エリス設計のロングクルージング向けのモデルで、スチール艇らしからぬ美しいラインが特徴的だ

瀬戸内海に浮かぶ小さな島、周防大島に暮らすカーク・パタソンさん(64歳)。そのカークさんが、愛艇(シルクパース)(マーク・エリス設計40フィートスチール艇)で1週間ほどのクルージングに出ると聞き、寄港地の広島観音マリーナまで駆けつけた。

カナダで育ち、社会人生活のほとんどを日本で過ごしてきたカークさん。54歳で仕事を早期リタイアすると、「後悔の少ない人生」を送るために、以前から温め続けてきた夢の実現に向けてチャレンジをスタートする。母国であるカナダでヨットを購入。全くの未経験だったが、4年間みっちりトレーニングを積み、2012年4月にカナダのビクトリアを1人で出航。27日間でホノルルに到着し、翌年4月に再出航ののち、太平洋を横断して37日間で函館に到着した。

艇の修理などで一息つくと、今度は北海道一周(時計回り)へ出発。この年は、本州日本海側を下り、福岡で冬を越した。翌春、航海を再開すると、五島列島などを經由して、与那国島まで足を延ばす。日本最西端の与那国島と日本最南端(自由に到達可能な)波照間島を、そ

れぞれの西端と南端まで、きっちりと回った。同様に陸地の外側をちゃんと回ることによって、四国南岸を經由して瀬戸内海に入り、この年は沖野島マリーナ(広島県)で越冬。翌年は、太平洋岸の各地を巡りながら北上し、函館に到着。自身の日本一周クルージングを完成させた。

そのカークさんは、国内クルージングでのナビゲーションツールの一つとして、ニューベックを活用している。全国の海岸線を網羅し、プレジャーボートをはじめとする小型船舶に特化して作られた、日本独自の航海用電子参考図であるニューベック。実際に現場で使ってみて、どのような感想を持ったのだろうか。

「ニューベックを使って航海して、その魅力を一言で言うなら、非常に安心できるということに尽きます。日本の海を走るなら、やっぱり日本の海を走るために作られたニューベックは必須です」

カークさんは、ニューベックの長所を大きく三つ挙げてくれた。

「まず一つ目は、なんといっても定置網がきちんと載っていること。日本の沿岸部は、とにかく定置網などの漁具が多いので、ニューベックがなかったら初めての海は走れないでしょう。私自身も、特に北海道を回るときには、本当に助かりました。また、目で見ただけでは分かりづらい、定置網の大きさもきちんと把握できます。これがわからないと、安全のためにわざわざ陸から離れて遠回りしなければならず、最適ルートを把握するのに大いに役立ちました」

カークさんは、ニューベックを起動しているパソコンにGPSをつけていたが、定置網の表示位置を現実の定置網と照らし合わせると、見事に一致しており、データの正確さに舌を巻いたようだ。「二つ目は、ニューベックに入っている潮汐や潮流のデータ(オプション)。航海計画を立てるときには、これらは欠かせない重要な情報なので、何時にどこを通ればよいか容易にわかり、非常に便利です。以前は紙に書いて計算していたのですから。潮流が表示できるポイントの数が増えれば、なおうれしいですね」

瀬戸内海などでは、潮汐や潮流をきちんと把握していなければ、大きなロスになる。潮の流れが速いところでは、機走力の弱いヨットの場合、ときに危険につながることもあるから、カークさんは潮止まりの時間を狙って航海計画を立てているようだ。



ふんだんにチークがあしらわれた船内のチャートテーブル。ニューベックをインストールしたノートパソコンは、ベルト(白)でテーブルに固定できている



船内の壁には、カナダから太平洋までの航跡図と、日本全国を回ってきたときの航跡図が張られていた。「外国人で日本一周したのは、おそらく私が初めてです」と、カークさんは胸を張る



航海中のナビゲーションには、艇に設置されたGPSプロッターとパソコン(ニューベック)に加えて、Yチャート(ヨット・モーターボート用参考図)を利用。航海中は、コンパニオンウェイ脇にYチャートを置いて使っている

「三つ目は、小さな漁港まできちんと情報が載っていること。私は日本全国を回ってきましたが、寄港地の8~9割は漁港でした。紙の海図は、本来は大型船を対象に作られているので、小さな漁港などは、海図を見ても詳細まではわからないことが多いです。でも、ニューベックは、そういった小さな漁港も含めて、全国の海岸線を細かく網羅しています。太平洋横断時から使っているGPSプロッターの海外製のデータと比べても、細かなところの収載量の差は一目瞭然です」

ニューベックのデジタルチャートとしての性能に太鼓判を押すカークさん。では、航海中はどのようにそれを活用しているのだろうか。

「私が使っているのはパソコン版のニューベックです。やはり、先ほども話した三つのポイントは大きく、航海計画を立てるのはニューベックでということになります。出航して海を走っているときには、ステアリングポストに設置されたGPSプロッター

をメインに使い、ニューベックを起動したノートパソコンをドジャーの内側、コンパニオンウェイの上に置いています。ただ、海が荒れてくると、外(デッキ上)でノートパソコンを使うのは現実的ではなく、船内にしまわざるを得ませんね。パソコンを船内に置いていても、しっかり固定しておかないと、ふっ飛んでしまうようなこともあります」

キャビンハウスの中で操船するようなパワーボートとは違い、ヨットの場合は、雨風にさらされる場所でナビゲーションを行わなければならないケースも多い。それでも、正確な情報、そして圧倒的な情報量を持つニューベックの魅力は捨てがたいと話す。

「最近のスマホ(スマートフォン)やタブレットは、防水性能を持つ製品も多く出てきました。そういった端末でニューベックが使えるようになれば、場所を選ばないようになり、ナビゲーションの世界が劇的に変わると感じています」

## 日本の海を走るなら、ニューベックは必須! ニューベックアンバサダー カーク・パタソンさんに聞く

# 広がる ニューベック ファミリー

(一財)日本水路協会が発行する航海用電子参考図「ニューベック」。ウィンドウズパソコン上での運用に加えて、国内の航海機器メーカーの多くの製品に導入されるなど、「ニューベックファミリー」がナビゲーションの新標準になりつつある。そんなニューベックの魅力を誰よりも感じているのが、ニューベックアンバサダーのカーク・パタソンさんだ。太平洋横断に日本一周と、精力的に活動中のカークさんに話を聞いた。

航海用電子参考図「new pec」

JHA (一財)日本水路協会

海図ネットショップ

